

教科目名 歴史学特論Ⅱ (Special Lecture on history Ⅱ)

専攻名・学年 : 全専攻 1年 (教育プログラム 第3学年 ○科目)

単位数など : 選択 2単位 (後期1コマ, 授業時間 23.25時間)

担当教員 : 田中美穂

授業の概要			
ヨーロッパを中心に現代史について講義する。第一次世界大戦と第二次世界大戦は、ヨーロッパ諸国の間で行われた戦争でもあった。また、20世紀後半以降、世界各地で起こった地域紛争の背景には、欧米による支配の歴史があった。一方で、ヨーロッパは、EU という強固な地域共同体連合を世界に先駆けて成立させた。戦争の克服に努め、平和共存を模索してきたヨーロッパの現代史をたどりつつ、変貌し続ける現在の、そして未来の世界について考えていく。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1), JABEE 目標(a)	
(1) 戦争や地域紛争が起こる背景やしくみについて理解し、これらを克服する方策について考える。(定期試験)			
(2) グローバル化が進む現在において、世界の国々や人々が平和共存するための課題について考える。(定期試験)			
(3) 講義内容から選んだ歴史的なテーマについて考え、論述する力を身につける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	第一次世界大戦	○20世紀前半に起こった二つの世界大戦について理解できる。 ○帝国主義の時代の欧米による世界分割によって、負の遺産を継承させられた国々が抱える問題について理解できる。 ○社会主義国と資本主義国との違いについて理解できる。	【理解の度合い】
2	第二次世界大戦(1)		
3	第二次世界大戦(2)		
4	パレスティナ問題		
5	アフリカでの紛争		
6	東西ドイツの統一		
7	クルド人問題(1)		
8	クルド人問題(2)	○ソ連やアメリカといった軍事大国の介入によって翻弄されてきた地域が抱える問題について理解できる。 ○各地域や各国における少数民族が迫害されてきた歴史について理解できる。 ○地域間の平和共存を実現させた EU の取り組みについて理解できる。 ○貧困を撲滅しようとする取り組みについて理解できる。	【理解の度合い】
9	ロシアとチェチェン		
10	ユーゴスラヴィアの解体		
11	軍事大国アメリカ		
12	9・11事件とイラク戦争		
13	アフガニスタンでの戦争		
14	EUの挑戦, 貧困の撲滅		
15	後期期末試験 後期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
履修上の注意	講義中に話す内容について、各自でしっかりノートまとめをすること。		【総合達成度】
教科書	毎回レジュメや資料を提供する。		
参考図書	毎回授業で紹介する。		
自学上の注意	講義内容に関する世界史の部分を復習しておくこと。新聞やテレビのニュース・教養番組などを通じて時事問題についてたくさん触れること。		
関連科目	世界史, 歴史学概説, 歴史学特論Ⅰ(専攻科)		
総合評価	1回の欠席につき2点を減点する。試験の点数から欠席回数×2点を減点して総合評価を出す。ただし、病気など特別な理由で欠席した場合は、申し出れば減点対象とはしない。総合評価60点以上が合格。試験の点数が40点以上60点未満の者には再試験を行うことがある。この場合の実施方法、条件などは授業において明示する。		【総合評価】 点